

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	eravu名塩		
○保護者評価実施期間	2025年12月9日		～ 2026年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年11月26日		～ 2025年12月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達的な特性を理解し、ご本人の様子に合った支援を行っている。	事業所内での日々の共有を通して、放課後等デイサービス利用時も含めた利用児童の実態把握、個々の特性に応じた適切な支援方法の検討を行っている。訪問支援開始前に学習内容、支援の方針を担任の先生と共有し、ご本人の特性、能力、支援の受け入れ度合いを考慮して、個々にあった支援を心がけている。	研修や事例検討を重ねることで発達についての専門的な知識をより深めていく。
2	保護者様との情報共有を頻繁に行っており、ご本人、ご家庭の適切なニーズの把握に努めている。	訪問支援時の細かな支援内容、様子の報告、送迎時に直接様子をお伝えし、ご家庭での様子も伺っている。	お子さんに関わるより細かな情報の把握を心がけ、利用児童の実態把握、進路指導も踏まえた中長期的な支援方針を検討する。保護者様からの希望時だけでなく定期的な面談を実施し、ご本人やご家庭の困り感を把握していく。
3	訪問先施設の実態に合わせた支援を行っている。	学校毎の訪問支援の受け入れ状況、学校の職員、支援員の配置人数を踏まえ、訪問日程の調整、支援の内容の検討を行っている。	年度が変わる期間は、頻繁な情報共有を行い、訪問先とのスムーズな関係づくり、適切な実態把握を心がける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様によって支援方針の合意が不十分なケースがある。	支援計画作成時・年度開始時のヒアリングが十分に行えていない。	定期的なヒアリングを設定し、支援の方針を明確にするとともに、具体的な状況を共有する。
2	訪問先施設との支援後のやり取りの時間の確保が難しい。	訪問先施設、支援員双方のスケジュールの都合から、まとまった時間を共有することが難しい。	訪問支援後の休み時間等をいただいて、短い時間でもお子さんの様子、支援内容について共有する。
3	訪問先施設と支援員、保護者と支援員それぞれのやり取りが、二者間で完結してしまっている。	情報共有を行う機会や時間が少ない。	訪問先施設に対しては、支援後の休み時間等を頂いて、情報共有の時間を確保する。保護者に対しては、支援後の報告の他に、支援計画更新時などにヒアリングを行う。